

## 令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(3) 上下水道の充実	上下水道部長 田中 直樹
目指す姿	市民が、生活環境の改善を図り、良好な水環境の中で、おいしい水を利用しています。	
関連する分野別計画	亀山市新水道ビジョン	

## SDGs

<p>基本施策に関連するSDGsのゴール</p>	<div> <div> 6 安全な水とトイレを世界中に  </div> <div> 9 産業と経済活動の振興をつくろう  </div> <div> 11 住み続けられるまちづくりを  </div> <div> 13 気候変動に具体的な対策を  </div> <div> 14 海の豊かを守ろう  </div> </div>
<p>SDGs推進の考察</p>	<p>水道施設の改良や耐震化による水道水の安定供給及び下水道施設の拡張整備や更新による生活環境の向上並びに公共用水域の水質保全に努めることができた。また、工業団地において進出企業への配水管等の整備を行い産業化の基盤整備を行うことができた。さらに、集中豪雨などへの浸水対策として行う都市下水路の改良に向けて準備を行った。</p>

## ■関連する主な事業

(単位:千円)

[illegible]

太字:主要事業

■成果指標

指標			現状値		実績値				目標値
					R4	R5	R6	R7	
1	上水道の有収率(北中勢水道を除く)	%	90.0	R2	89.70				92.3
2	汚水処理人口普及率	%	88.6	R2	89.11				89.1
3	水道事業会計の経常収支比率	%	120.67	R2	114.74				114.00
4	下水道事業会計の経常収支比率	%	104.21	R2	104.93				100.00
5									
6									
7									
8									

■市民アンケート調査

項目			現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察  —  令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、 次年度に考察します。
1	安全でおいしい水が供給されている	重要度	1.62			
		満足度	1.08			
2	生活排水が適正に処理されている	重要度	1.52			
		満足度	0.85			
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				

■施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 安全でおいしい水の安定供給	基幹管路の耐震化や緊急遮断弁の整備等、地震災害対策を進めるとともに、各施設の修繕、点検業務など、水道施設・設備の適切な維持管理・更新を行った。
② 生活排水対策の推進	公共下水道事業計画に基づき下水道未普及地域への供用開始区域の拡大を行うと共に、下水道事業区域外には、浄化槽設置補助金等を交付し、水質汚濁防止に努める。
③ 上下水道事業の健全経営(上水道)	エネルギー価格高騰により動力費の増があったものの、経費削減や効率的な施設の整備・維持管理により、健全で安定した事業の運営を行うことができています。
③ 上下水道事業の健全経営(下水道)	全下水道事業を企業会計化したことで、比較可能な形で経営状況を把握できた。計画的な整備と接続促進により、使用料の確保に努め、持続可能な経営を維持する。
④	
⑤	
⑥	

総合評価

安全でおいしい水の安定供給については、西町地内の基幹管路の耐震化及び関第2配水池への緊急遮断弁の設置を行い震災対策を行うとともに、能褒野町地内において水圧不足を解消するための配水管改良を行うほか、各水道施設の更新や維持管理並びに水質管理を適切に行うことができた。また、生活排水対策の推進については、公共下水道事業において、未普及地域への整備を進め、令和5年3月31日に新たに北町、東御幸町、御幸町、阿野田町、川合町、川崎町、能褒野町及び布気町の一部区域において供用を開始し、公共下水道処理人口普及率は、前年度より0.7ポイント増の62.0%となり、農業集落排水処理人口普及率及び合併処理浄化槽人口普及率を合わせた汚水処理人口普及率は89.1%となった。一方、農業集落排水施設機能強化事業では、辺法寺地区、白木地区、上加太地区の処理場において、老朽化した機器等の更新工事を行ったが、令和4年度発注分は新型コロナウイルス感染症の影響による資材の納入の遅れにより年度内完成ができず令和5年度へ繰越を行った。そのほか、集中豪雨などによる浸水対策として、東御幸地区の都市下水路の改良を行うための基本設計を行い工法の選定を行った。また、上下水道事業の健全経営については、水道料金及び下水道使用料などの収入確保に努めた一方で、エネルギー価格高騰による動力費の増など経費が増加したが、経常収支比率は水道事業及び下水道事業の両会計とも100%を超えた比率となり健全な経営状況となっている。そのほか、令和4年度は、従来の公共下水道事業に新たに企業会計化した農業集落排水事業を合わせた下水道事業会計の初年度であったが適切に会計運営を行うことができた。

A

順調に進んだ

今後の展開方針

水道事業については、施設の耐震化や老朽化対策を進めるとともに、適正な維持管理を行うことで水道水の安定供給を図る。また、新たな産業団地へ供給する水の確保に努める。下水道事業については、公共下水道の未普及地域への整備を進めるとともに施設の老朽化対策を行う。また、最適整備構想により農業集落排水から公共下水道へ移行する地区に対し、移行のための準備を行う。都市下水路については、既設水路などの改良工事を行い浸水対策を進める。上水道事業の健全経営については、新水道ビジョンに基づく計画的な施設整備に努めるとともに、水道料金などの収入確保と有収率の向上に努める。下水道事業の健全経営については、公共下水道事業計画に基づく計画的な施設整備に努めるとともに、国庫補助金や企業債の活用及び下水道使用料などの収入確保と下水道への接続率の向上に努める。